

進む国土建設

熊本県の主要建設事業の展望

県産業の飛躍的發展をねらい、産業基盤施設の充実と適地適産に主力を注いできた「計画建設」もすでに三年目。着々と実績を挙げつゝ、いま最後の仕上げの段階に入っている。

又、九州産業圏の確立をめざす九州総合開発の計画、或は建設省・農林省直轄の各種建設・開発事業も、多彩に、而も力強く熊本県下に展開されている。

七月十日から七月十六日まで「国土建設週間」を迎えるにあたり、これらをもくめた「本県主要建設開発事業の展望」を県民の皆さんに贈る。

大地に改良のメスを

熊本平野総合開発計画

まず総合的な事業には熊本平野総合開発計画がある。これは熊本平野を災害から防ぎ土地の利用度を高めて生産力を増強するなど根本的な総合開発計画をたて、国の災害防

除計画におり込んで推進しようというものである。従つてこの計画の主な目標を次の点にしている。即ち各河川の上流地点にダムを設け、天明新川、無田川等の改修と主な用排水路の整理統合をはかり、全地

玉名平野の土地改良

又、菊池川の流域、玉名平野は本県に

おける米の主産地であるが、県ではいま玉名市外五カ町村と国営横島干拓を含む四、四〇〇ヘクタールにわたる用水改良事業も総事業費九億四千五百万円を計画している。これは菊池川両岸に水路十五軒を新設して用水を引込み、干ばつの防止と、八嘉・岱明の台地にポンプで揚水して畑地かんがいと開田を行い、米換算約二万四千俵の増産をねらっているわけである。

花房台地の畑地かんがい

このほか菊池郡の花房台地の畑地かんがい事業がある。

ここは旧陸軍飛行場のあつたところ。今は開拓地を主とした畑地帯であるが、この計画では花房台地東部約六〇〇ヘクタール(菊池町、泗水村、旭志村)に合志川から用水を導入して畑地かんがいをするもので、そのため合志川上流には「小川ダム」をつくり約十九軒の用水路を新しくつくる計画である。これができるのと米換算約二万五千俵の増産が期待されるが、これに要する総事業費は一億八千万円。なお現在は農林省が直轄調査として畑地かんがい試験を続け、県としてもダム地点の調査測量を計画中である。

土地改良事業はこのほかに古田ダムを利用する八代平野の土地改良や、市房ダムを利用する球磨南部の土地改良事業がある。

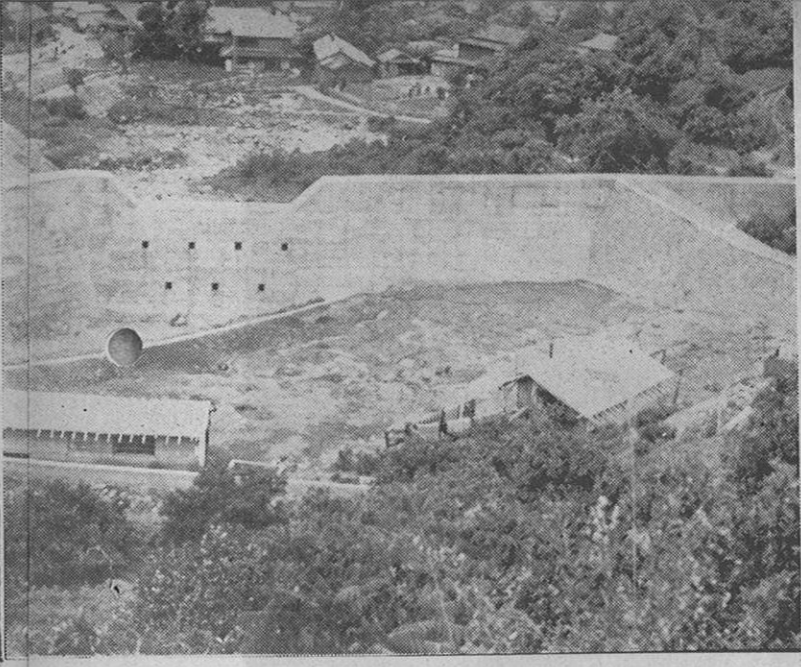
道路は産業の大動脈

県では道路の開発と改修に力を注いでいるが、中でも目立つのが九州山脈を縦断する九州中央産業開発道路の開発と、福岡、熊本、鹿児島を結んでいる一級国道の整備、これに併行する三太郎峠改修の三つの事業がある。

九州中央産業開発道路 これは福岡、熊本、大分、宮崎、鹿児島との五県にわたつて、九州山脈を縦断する幹線道路であるが、本県では、福岡県から阿蘇の杖立に入り、小国、宮原を経て一旦大分県に入り、再び野尻に出、又大分県に入った後、上益城郡馬見原を通り、下益城郡砥用、八代郡泉村、球磨郡水上村などを経て宮崎県へ抜けるもの。この道路は別に

新しくつくるのではなく、これまでの県道(林道なども含む)や町村道を一貫して連続開発するものである。総延長一七八軒、事業費四五億円の計画で、はやくから部分的に工事を進めているが、特に今年度は車輪の通れない様な部分から重点的に工事を進めることになっている。

この路線が完成すれば、各地域間の物資の交流が円滑になると同時に、森林資



★天水村に完成した砂防ダム

昨年の七・二六災害で、一夜のうちに破壊された天水村のミカン畑にも、総工費3,700万円を要する砂防ダムの完成した。写真は、その完成した砂防ダムの様子。この砂防ダムの完成で、今年の雨期は安心です」と、山すの人は云っている。

このほかに、県全体の災害復旧計画を樹てて各地に周知のようだが、とりわけ金峯山と坪井川・井芹川の改修事業を強力に実施中である。